

思いやり意識の性差と因子構造

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金子, 劭榮, 田村, 博久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/4389

思いやり意識の性差と因子構造

金子 劭榮・田村 博久*

Sex Difference of 'OMOIYARI' Sense and Its Factor Structure

Shoei KANEKO Hirohisa TAMURA*

目的

ここで考える思いやり意識は、他への思いやりのみならず、自分へ思いやり、自然や崇高なものへ思いやり、そして、社会や集団への思いやりをそれぞれ対象としている。筆者らは先に、これら各種の思いやり意識が年齢によりどのように変化するか、その発達傾向を明らかにした(金子・田村, 1998)。本稿では質問項目に対する反応傾向から、以下の2点, すなわち、思いやり意識に関わるそれぞれの年齢段階における性差を明らかにし、小学校6年生、高校2年生、保護者といった異なる3世代について、思いやり意識の因子構造を明らかにしたい。

方法

調査対象 本研究では8つの年齢段階を調査対象とするが、それらを「世代」と表記することにする。世代別調査対象は、石川県金沢市内および松任市内の小、中、高等学校、ならびに大学に通う者とその保護者で、以下の通りである(Table 1)。但し、高校生、大学生ならびに保護者の住居はこれら両市内でないものも含まれる。

なお今回、保護者については35歳から49歳の

556名を対象とした。なお、性別不明者は性別を関連させない分析に使用した。

調査時期 1997年7月中旬

Table 1 調査対象者一覧 (人)

	男	女	不明	合計
小学校4年生	64	72	0	136
小学校6年生	70	72	1	143
中学校2年生	71	77	2	150
高校2年生	91	57	0	148
大学1,2年生	90	67	4	161
保護者30歳後半	18	139	0	157
保護者40歳前半	71	163	2	236
保護者40歳後半	58	102	3	163
合計	533	749	12	1,294

質問紙 使用する質問紙の作成にあたっては、筆者らの先の調査(金子・田村, 1997)を踏まえ、平成元年度文部省小学校学習指導要領道徳編における22の内容項目を参考にした。詳細は金子・田村(1998)を参照されたい。

調査実施手続き 調査は各学校にて、印刷された質問紙がクラス担任教諭等により配布され、簡単な説明の後、児童・生徒に質問項目を読ま

せ、自分に当てはまる程度について回答を求めた。また、保護者については自宅での回答を依頼し、クラス担任教諭による直接回収、一部高校と大学については郵送による回収を行った（保護者の回収率 小学校90%、中学校88%、高校86%、大学78%）。

結果と考察

1. 思いやり意識の性差

各世代における性差を確認するため、各質問項目ごとに、高得点ほどその内容を肯定するように1~5点で得点化し、その平均値を求め、質問項目の評定平均値の比較を行った（t検定）。30歳後半の男性はサンプルが少ないので参考として示す。なおFig. 1~ 10は特徴的な性差の例を示し、その縦軸は評定平均値、横軸は世代、そして矢印はその世代で性差のあることを示している。

(1) 小学生から中学生、高校生の世代

小学生から中学生、高校生の世代の範囲においては、男子に比べ女子で、「友達におはようと声をかける」、「ふんいきを明るくする」、「あいさつをするとお互いに気持ちがいい」(Fig. 1)といった和やかな雰囲気を作ろうとする傾向が見られる。また、「雨で傘を忘れた

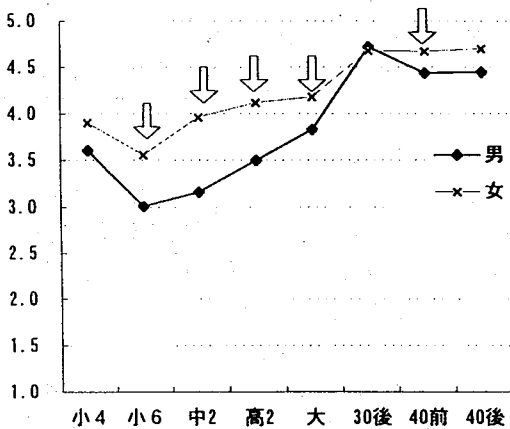


Fig.1 あいさつをするとお互い気持ちがいい

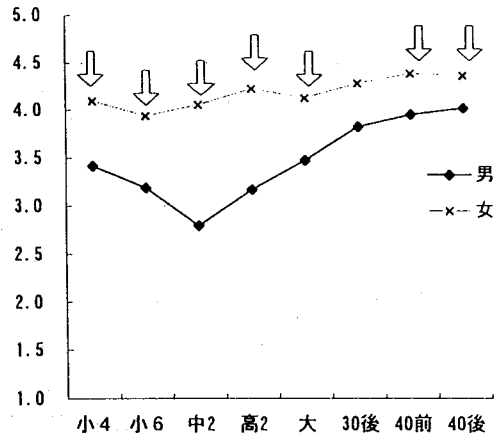


Fig.2 雨でかさを持たれた友だちを自分のかさに入れてあげたい

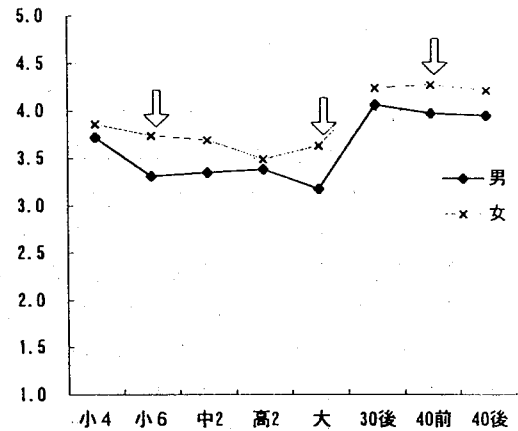


Fig.3 バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい

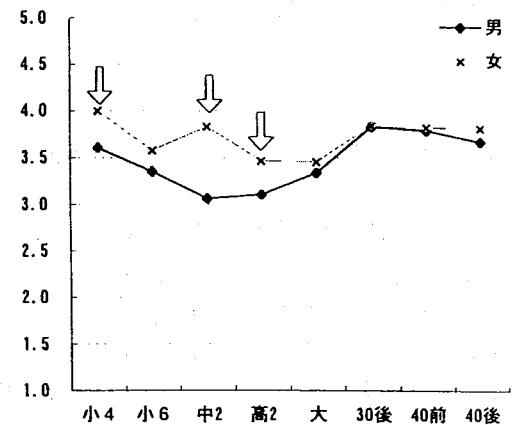


Fig.4 悪口を言われる友達をかばってあげたい

友達を自分の傘に入れてあげたい」(Fig. 2), 「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい」(Fig. 3), 「悪口を言われている友達をかばってあげたい」(Fig. 4), 「他の役に立つ」, 「困っている人のために募金する」, 「言葉は通じないけど外国の人と楽しく過ごしたい」(Fig. 5)と, 身近な人々にかか

わり, 手を差し伸べようとする傾向も見られる。その一方で, 「家族に病人がいると心配でしかたがない」(Fig. 6), 「つまらないことで思い悩むことがある」(Fig. 7), 「他の人の意見に納得できない時でも反対できない」(Fig. 8), 「いやなことはいやといえない」, といった周囲への対応に迷い, 自分を押しやしてしまうような女子の姿も推測できる。

(2) 高校生から大学生の世代

また, 高校生から大学生の世代の範囲では, 男子に比べて女子で, 「誰もいない部屋に電気がついているともったいない」(Fig. 9), 「家に入る時にははきものをそろえる」(Fig. 10)といった節度ある姿勢が推測され, 「学校は楽しい」, 「友達におはようと声をかける」, 「あいさつをするとお互いに気持ちがいい」(Fig. 1)といった学校関係をもとに和やかにかわろうとする傾向が考えられる。また, 「雨で傘を忘れた友達を自分の傘に入れてあげたい」(Fig. 2), 「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい」(Fig. 3), 「悪口を言われている友達をかばってあげた

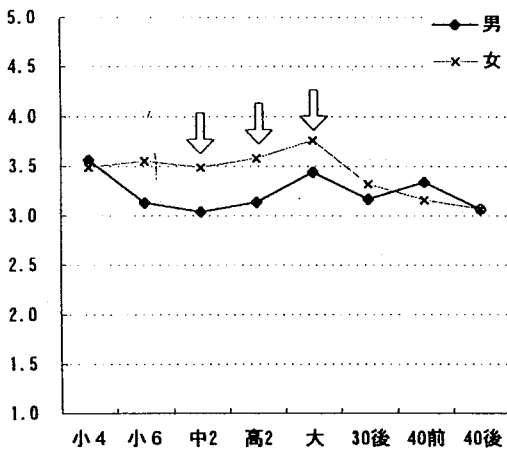


Fig.5 言葉は通じないけど外国の人と楽しくすごしたい

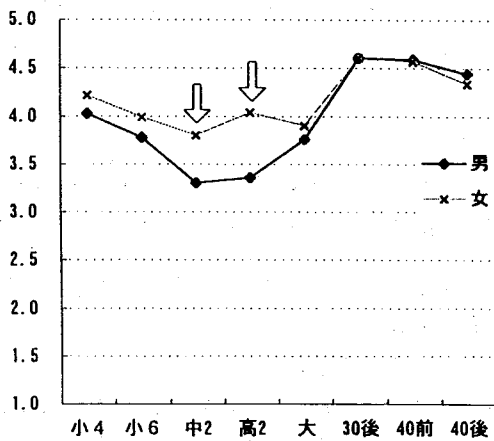


Fig.6 家族に病人がいると心配でしかたがない

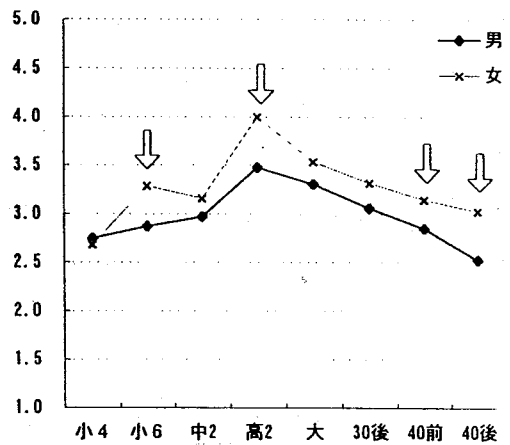


Fig.7 つまらないことで思い悩むことがある

い」(Fig.4), 「言葉は通じないけど外国の人と楽しく過ごしたい」(Fig.5), 「頼りにされている」, といった身近に関わろうとする傾向も小中学生同様に见うけられる。さらに, 「家でほっとする」, 「家族に病人がいると心配でしかたがない」(Fig.6), 「つまらないことで思い悩むことがある」(Fig.7)と安らぎや迷いを明確にしているような女性の傾向が見うけられる。

(3) 保護者の世代

保護者の世代では, 男性に比べ女性で「家に入る時にははきものをそろえる」(Fig.10), 「誰もいない部屋に電気がついているともったいない」(Fig.9), 「あいさつをするとお互いに気持ちがいい」(Fig.1), 「雨で傘を忘れた友達を自分の傘に入れてあげたい」(Fig.2), 「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい」(Fig.3), 「困っている人のために募金する」といった項目で高校生や大学生同様, 和やかにかかわり, 身近な関係を大切にしようとする傾向が見られる。一方で, 男性に比べて「思い悩む」(Fig.7), 「あきらめる」, 「他の人の意見に納得できない時で

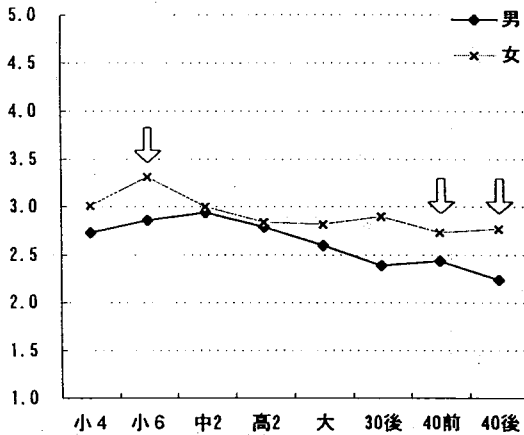


Fig.8 他の方の意見に納得できないときでも反対できない

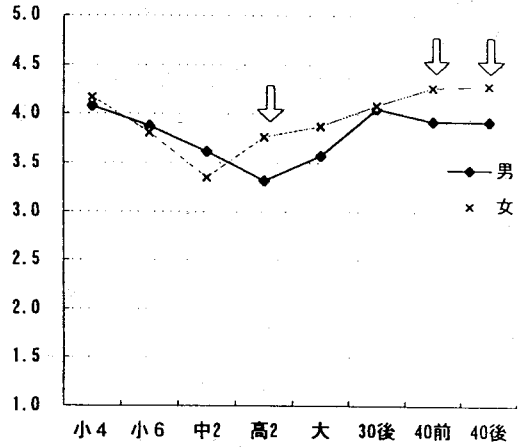


Fig.9 誰もいない部屋に電気がついているともったいない

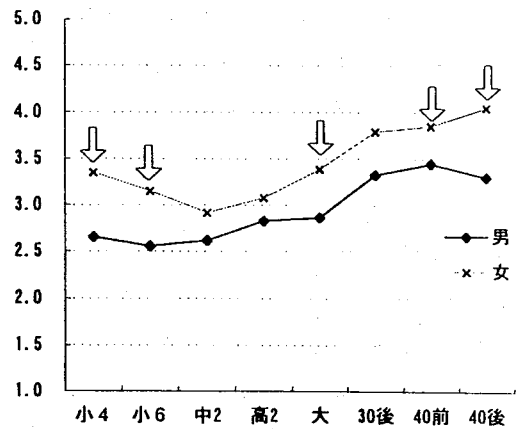


Fig.10 家に入る時、はきものをそろえる

も反対できない」(Fig.8)といった迷う女性の姿も推測される。

世代を通して見ると, 全体的に女性に比べて男性は自分に目をむけ, 自分本位で考えることが多く, 一方女性は, 他に目をむけながら, 他との関係の中で物事を考えることが多いように

推測される。このような背景には、日本の伝統的な風習や人間関係があるのかもしれないし、思いやり意識自体に性差の基盤が存在しているのかもしれない。

2. 思いやり意識の因子構造

ここで用いた思いやり意識に関する70項目について、世代による因子構造の相違と類似性を明らかにするために小学校6年生、高校2年生、保護者の3世代について因子分析を行った。なお、ここで保護者は、30歳後半、40歳前半、40歳後半を一括して取り扱った。因子分析はすべて主因子法により、軸の回転はVarimax法を用いた。共通性が極端に小さい項目、さらに軸の回転後の因子負荷量が、いずれの因子についても0.3未満の項目、そして、極めて解釈が困難な項目を除外することにより適切な因子構造を求めた。

最終的に、小学校6年生53項目、高校2年生55項目、保護者50項目について、因子の抽出を行った。因子数の決定は固有値の減少傾向や解釈のしやすさ等を加味し、Table 2～4に示す結果を得た。なお、表中の因子負荷量、共通性は小数点を省略し、因子負荷量の絶対値が0.3未満のものを省いて示した。

(1) 小学校6年生の因子構造

小学校6年生の反応について分析した結果、5因子解を得た (Table 2)。

第1因子では、「ふざける人を嫌い」、「友達をかさに入れてあげ」、「お年寄りや体の不自由な人に席を譲り」、「悪口を言われる友達をかばう」といった社会の価値基準にそう生活習慣や日常生活の一面が含まれる。また、「他に支えられている自分」とともに、「家族への心配」、「家族との楽しさ」、「家族のために働く父母への感謝」という、家庭に居場所を置いた、身近な家族への思いが含まれている。さらに、「日本のよさをいろいろな国の人に教えた」、「外国の出来事が気になる」、「外国の人と楽しくすごしたい」、「オリンピックで日本が勝つとうれしい」と、自分の世界から目を

諸外国へ向けている項目も含まれる。これらのことから、身近にみえるものへの対応から視野を広げ、前向きに外と向き合おうとしている子どもの素直さの一つの現れではないかと捉えた。よって、第1因子を「素直さ」因子とした。

第2因子には、他の二つの世代では見られない特徴が考えられる。「生きていることは大切」、「大切なものは命」、「何が足りないのか考える」といった自分に対するきびしさ、そして「きまりは守る」、「迷惑にならないか注意」、「他の意見をわかろうと努力」、「仕事を工夫」、「おかげでできあがる」、「捨てる空き缶に腹が立つ」、「友達を助けないのは悪い」、「係や当番の仕事はしなければ」と他に対するまっすぐな思いや行動、さらに「野茂投手はすごい」、「大きな木はすごい」と自分を超越する力や自然のすごさを感じる姿勢といった項目が含まれる。このように自分の存在を肯定的に評価しながら、社会生活の中では家庭内では得られない協調性や協力のルール、畏敬に対して真っ直ぐに見つめ、対応している様子がうかがえる。よって、第2因子を「自らをふりかえる」因子とした。

第3因子は「野生の動物が減びてしまう」、「川や海を汚さない」と、自分の将来に及んできそうな環境の悪化を、身近な問題として危惧する思いと、「やりたいことがたくさんある」、「自分を立派に見せたい」、「自分らしさを大切に」、「他人がしないすばらしいことをしたい」、「他のためにしなければならない」、「自分の将来は希望にあふれている」、「ふざけすぎないように注意」、「ひいきに腹が立つ」と、自分へ関心が高まり、将来の自分を意識し、自分らしさを大切しながら、他との関係にも配慮し、自らの気持ちを満たそうとする内容から、第3因子を「自己充足」因子とした。

第4因子には「まわりは私に期待」、「友達に頼りにされる」、「学校を自慢」、「雰囲気をもるくする」、「よい学校にしたい」、「自分

Table 2 小学校6年生の思いやり意識の因子構造 (回転後)

	I	II	III	IV	V	h^2
1 郵便配達人に「ありがとう」とあいさつしたい	738					563
2 新聞配達人に「ごろうさま」とあいさつしたい	737					579
60 家族に病人がいると心配でしかたがない	567					446
27 バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい	548		301			422
61 家族みんながそろると楽しい(うれしい)	531					376
29 悪口を言われる友だちをかばってあげたい	505			416		529
37 家族のために働いている父母はえらい	502					293
24 あいさつをするとお互い気持ちがいい	468		325		318	485
69 日本のよさをいろいろな国の人に教えたい	454					362
70 外国の出来事が気になる	437				-323	399
68 言葉は通じないけど外国の人と楽しくすごしたい	406					288
65 オリンピックなどで日本が勝つとうれしい	394					247
43 自分は他に支えられて生きている	387					261
26 雨でかさを忘れた友だちを自分のかさに入れてあげたい	378					288
54 いじめられている友だちを助けないのは悪いことだ	376	369	361			436
14 ふざけて面白がっている人は嫌い	313				300	301
50 少しぐらい寂しい思ってもきまりは守らなければならない		595				426
52 何かする時他に迷惑にならないか注意する		586				361
34 自分と違う他の意見をわかろうと努力する		499				301
51 道ばたに捨ててある空缶を見ると腹が立つ	325	457				401
36 夢に向かいアメリカ大リーグでがんばる野茂投手はすごい		453				305
45 何百年も生きてきた大きな木はすごい		449				344
19 みんながやりやすいように係の仕事を工夫する		445				292
41 自分が今生きていることは大切なことだ		426	339			440
13 「自由にして」の時どうしたらよいかわからないことがある		420				227
42 一番大切なものは一つしかない命だ		415				230
5 勉強や仕事で何が足りないのか考える		382	303			311
35 いろいろな人のおかげで身の回りができがっている	335	359				376
56 できることなら係や当番の仕事はしたくない		-426				283
40 このままでは野生の動物たちが少しずつ減ってしまう			658			514
39 川や海を汚さないようにしないと大変なことになる			593			488
11 自分にはやりたいことがたくさんある			535			383
33 他には少しでも自分を立派に見せたい			525	326		457
20 他の人とちがう自分らしさを大切にしたい			499	340		459
17 他人がしないすばらしいことをしたい			478			362
8 自分の将来は希望にあふれている			459			419
23 仲のよい友だちでもふざけすぎないように注意する		352	456			419
49 少しぐらい苦勞しても他のためにしなければならぬことがある	300		417			350
53 「ひいき」している人に腹が立つ			395			241
48 まわりは私に期待している			301	652		522
30 友だちに頼りにされていると思う				632		403
62 自分たちの学校を自慢したい				578		540
15 周りの雰囲気明るくするのがうまい				537		378
63 自分たちの学校をもっとよい学校にしたい	337	383		480		517
22 他と違う自分のよいところをのぼそうとする		322	375	427		496
67 今住んでいる町は自慢できると思う				386		308
66 自分の住んでいる町をもっといい町にしたい		325		374		345
47 クラスのためにできることはあまりない				-383		187
55 人の意見を聞いて何が正しいのかわからなくて迷う					465	233
21 他の人の意見に納得できないときでも反対できない					447	294
18 勉強や仕事が能率よくできるように工夫する					-332	279
9 いやなことは誰にでも「いやだ」と言える				306	-392	274
64 学校にいると楽しいことがたくさんある		392			-400	352
寄 与	5.379	4.557	4.249	3.645	1.986	19.82

のよいところをのぼそう」, 「町は自慢できる」, 「もっといい町にしたい」, 「クラスのためにすることがある」と, 仲間や自分の周辺との関(か)わりから自分を見つめようとする内容が含まれる。他から認められる評価によって, 自分とはどのようなものであるかを意識し始めるように捉えられる。よって, 第4因子を「周囲との関わり」因子とした。

第5因子には, 「人の意見に迷う」, 「他の人の意見に反対できない」, 「勉強や仕事に工夫できない」, 「いやなことをいやだと言えない」, 「学校にいても楽しくない」といった, 対人関係における自分の弱さや悩み, 判断に迷うといった内容が含まれる。よって, 第5因子を「対人関係の迷い」因子とした。

(2) 高校2年生の因子構造

高校2年生の反応について分析した結果, 5因子解を得た (Table 3)。

第1因子は「他人がしないすばらしいことをしたい」, 「やりたいことがたくさんある」, 「自分を立派に見せたい」, 「他と違う自分のよいところをのぼそう」, 「友達に頼りにされている」, 「まわりは私に期待」, 「勉強や仕事を工夫」, 「係の仕事を工夫」, 「何が足りないのか考える」, 「自分らしさを大切に」, 「生きていることは大切」, 「自分は他の役に立つ」, 「雰囲気明るくする」, 「ひいきに腹が立つ」, 「他の意見に反対できる」といった, 他との関わりの中で自分自身に自信を持ち, 自分の立場を明確にしようとする傾向がうかがえる。また, 「学校を自慢したい」, 「もっとよい学校にしたい」, 「学校にいると楽しい」, 「日本のよさを教えたい」, 「おはようと声をかける」と学校関係を中心とした自分の周辺環境を大切にしている傾向もうかがえる。よって, 第1因子を「自己伸長」因子とした。

第2因子には「父母はえらい」, 「家族が心配」, 「家族は楽しい」, 「家に帰るとほっとする」といった, 安心感の中で自分が家族の一員として存在していると考えている傾向と,

「人のおかげでできあがる」, 「他のためにしなければならないことがある」, 「他に支えられて生きている」, 「他に迷惑にならないか注意」, 「友達を助けないのは悪い」, 「野茂投手はすごい」, 「あいさつは気持ちがいい」と, 身近な友達を含めながら, いろいろな人々に支えられ, 共に生活していると考えている傾向である。よって, 第2因子を「身近な共生」因子とした。

第3因子には「友達をかばう」, 「友達を自分のかさに入れてあげる」, 「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲る」, 「ふざけている人は嫌い」, 「ありがとうとあいさつ」, 「ごくろうさまとあいさつ」, 「外国の人と楽しく」, 「はきものをそろえる」, 「ふざけすぎないように注意」, 「迷惑はいけない」, 「クラスのためにできることがある」と, 相手やクラスのことを意識し, 具体的なあいさつから, 迷惑やふざけることについて考えたり, さらに守るべき規律を捉えているような内容が含まれている。よって, 第3因子を「まじめさ」因子とした。

第4因子には, 「川や海を汚さないようにする」, 「野生の動物たちが減びてしまう」, 「自然を壊してはならない」, 「大きな木はすごい」といった自然環境保護に関する問題意識と, 「捨ててある空き缶に腹が立つ」, 「電気がもったいない」, 「ボランティア活動に進んで参加」, 「募金する」など環境保護, 支援等の視点から社会生活へ手を差しのべたい思いが含まれている。よって, 第4因子を「環境保護」因子とした。

第5因子は「人の意見に迷う」, 「思い悩む」, 「苦しいとあきらめてしまう」, 「自由にとまどう」, 「将来は希望にあふれていない」と, 思い悩む姿が含まれる。よって, 第5因子を「悩み」因子とした。

(3) 保護者の因子構造

保護者の反応について分析した結果, 5因子解を得た (Table 4)。

Table 3 高校2年生の思いやり意識の因子構造(回転後)

項目内容	I	II	III	IV	V	h ²
17 他人がしないすばらしいことをしたい	606					455
62 自分たちの学校を自慢したい	539					370
63 自分たちの学校をもっとよい学校にしたい	535					415
22 他と違う自分のよいところをのばそうとする	533					470
33 他には少しでも自分を立派に見せたい	532				344	429
30 友だちに頼りにされていると思う	502					396
15 周りの雰囲気明るくするのがうまい	502					298
48 まわりは私に期待している	471					368
19 みんながやりやすいように係の仕事を工夫する	471					306
20 他人とちがう自分らしさを大切にしたい	468					393
64 学校にいると楽しいことがたくさんある	441	315				348
69 日本のよさをいろいろな国の人に教えたい	410		390			340
41 自分が今生きていることは大切なことだ	410	333				330
4 友だちに「おはよう」と声をかける	389					191
57 自分でできることをするだけでも他の役に立つ	385		313			329
18 勉強や仕事が能率よくできるように工夫する	371					253
11 自分にはやりたいことがたくさんある	360			339		267
53 「ひいき」している人に腹が立つ	354					170
5 勉強や仕事で何が足りないのか考える	348					313
21 他人の意見に納得できないときでも反対できない	-361				347	275
37 家族のために働いている父母はえらい		682				521
60 家族に病人がいると心配でしかたがない		643				501
61 家族みんながそろると楽しい(うれしい)		629				445
59 家に帰るとほっとする		554				324
35 いろいろな人のおかげで身の回りができあがっている		551				451
24 あいさつをするとお互い気持ちがいい	377	496	363			548
49 少しぐらい苦勞しても他のためにしなければならないことがある		496				442
43 自分は他に支えられて生きている		456		329		349
52 何かする時他に迷惑にならないか注意する		409				261
54 いじめられている友だちを助けたいのは悪いことだ		330	306			289
36 夢に向かいアメリカ大リーグでがんばる野茂投手はすごい		328				159
1 郵便配達人に「ありがとう」とあいさつしたい			609			534
2 新聞配達人に「ごくろうさま」とあいさつしたい			501			420
29 悪口を言われる友だちをそばであげたい	310	379	498			496
26 雨でかさを持たれた友だちを自分のかさに入れてあげたい		478	488			521
27 バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい		351	465	409		516
68 言葉は通じないけど外国の人と楽しくすごしたい	322		463			397
25 家に入る時はきものをそろえる			408			279
14 ふざけて面白がっている人は嫌い			392			222
23 仲のよい友だちでもふざけすぎないように注意する			384			234
47 クラスのためにできることはあまりない			-371			281
12 好きな事をする時少し位の迷惑は仕方ない			-471			280
39 川や海を汚さないようにしないと大変ことになる			310	599		529
40 このままでは野生の動物たちが少しずつ減ってしまう				591		394
45 何百年も生きてきた大きな木はすごい		353		508		406
51 道ばたに捨ててある空缶を見ると腹が立つ				490		375
6 誰もいない部屋に電気がついていてももったいない			384	474		381
58 「クリーン作戦」などボランティア活動に進んで参加する				430		213
28 困っている人のために募金する			322	332		291
38 生活が便利になるために少しぐらい自然がこわれても仕方がない				-602		417
55 人の意見を聞いて何が正しいのかわからなくて迷う					587	356
10 少し苦しいことがあるとあきらめてしまう					554	379
13 「自由にして」の時どうしたらよいかわからないことがある					522	311
16 つまらないことで思い悩むことがある					470	360
8 自分の将来は希望にあふれている	401				-459	435
寄 与	5.303	4.66	4.157	3.696	2.244	20.06

Table 4 保護者の思いやり意識の因子構造（回転後）

項目内容	I	II	III	IV	V	h ²
52 何かする時他に迷惑にならないか注意する	592					388
51 道ばたに捨ててある空缶を見ると腹が立つ	463					278
25 家に入る時はきものをそろえる	434					199
26 雨でかさを忘れた友だちを自分のかさに入れてあげたい	421					356
39 川や海を汚さないようにしないと大変なことになる	410				304	325
23 仲のよい友だちでもふざけすぎないように注意する	387					177
24 あいさつをするとお互い気持ちがいい	379	326				294
60 家族に病人がいると心配でしかたがない	375					203
27 バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲りたい	374	360				315
6 誰もいない部屋に電気がついているともったいない	361					167
4 友だちに「おはよう」と声をかける	358					210
29 悪口を言われる友だちをかばってあげたい	328	307				241
31 友だちと約束した時間をしっかり守る	323					143
40 このままでは野生の動物たちが少しずつ減びてしまう	312	300			300	284
14 ふざけて面白がっている人は嫌い	306					113
2 新聞配達人に「ごくろうさま」とあいさつしたい		530				351
69 日本のよさをいろいろな国の人に教えたい		526	338			392
1 郵便配達人に「ありがとう」とあいさつしたい	363	497				391
65 オリンピックなどで日本が勝つとうれしい		412				179
36 夢に向かいアメリカ大リーグでがんばる野茂投手はすごい		403				204
66 自分の住んでいる町をもっといい町にしたい		388	345			308
57 自分にできることをするだけでも他の役に立つ		369	362			305
43 自分は他に支えられて生きている		357			318	286
34 自分と違う他の意見をわかろうと努力する		347				245
28 困っている人のために募金する		330				153
61 家族みんながそろろうと楽しい(うれしい)		318				215
58 「クリーン作戦」などボランティア活動に進んで参加する		316				127
48 まわりは私に期待している			622			403
30 友だちに頼りにされていると思う			524			306
17 他人がしないすばらしいことをしたい			510			327
22 他と違う自分のよいところをのぼそうとする			502		409	471
19 みんながやりやすいように係の仕事を工夫する	311		409	-311		371
33 他には少しでも自分を立派に見せたい			384	345		267
8 自分の将来は希望にあふれている			377			287
18 勉強や仕事が能率よくできるように工夫する	310		348			326
11 自分にはやりたいことがたくさんある			339			186
5 勉強や仕事で何が足りないか考える			333			237
67 今住んでいる町は自慢できると思う			332			178
10 少し苦しいことがあるとあきらめてしまう				570		363
55 人の意見を聞いて何が正しいのかわからなくて迷う				553		330
16 つまらないことで思い悩むことがある				552		370
13 「自由にして」の時どうしたらよいかわからないことがある				481		254
21 他の人の意見に納得できないときでも反対できない				384		175
3 自分が悪いと思っても素直にあやまれない				366		144
56 できることなら係や当番の仕事はしたくない				359		150
20 他の人とちがう自分らしさを大切にしたい			373		531	483
45 何百年も生きてきた大きな木はすごい					490	373
41 自分が今生きていることは大切なことだ					392	333
35 いろいろな人のおかげで身の回りができあがっている		321			366	298
68 言葉は通じないけど外国の人と楽しくすごしたい					334	260
寄 与	3.368	3.167	2.979	2.266	1.985	13.76

第1因子は「はきものをそろえる」、「友達を自分のかさに入れてあげる」、「お年寄りや体の不自由な人に席を譲る」、「ふざけすぎないように注意」、「ふざけている人は嫌い」、「友達をかばう」といった高校2年生に見られた項目に加え、「あいさつは気持ちがいい」、「おはようと声をかける」、「家族が心配」、「他に迷惑にならないか注意」、「約束した時間を守る」、「捨ててある空缶に腹が立つ」、「川や海を汚さないようにする」、「野生の動物たちが減びてしまう」、「電気がもったいない」と、他への迷惑、環境問題や節約を積極的に捉え、心遣い、考えている傾向がうかがえる。よって、第1因子を「実直」因子とした。

第2因子は「ごくろうさまとあいさつ」、「ありがとうとあいさつ」、「日本のよさを教えたい」、「日本が勝つとうれしい」、「もっといい町にしたい」、「自分は他の役に立つ」、「他の意見をわかろうと努力する」、「募金する」、「ボランティア活動に進んで参加」と、身近にできるあいさつなどから、外国、オリンピック、自分の町と、広い範囲で相互理解を図ろうとしたり、感謝の念を持つとして、周囲との調和を心がける内容が含まれる。そして、高校2年生にも見られた「自分は支えられている」、「野茂投手はすごい」、「家族は楽しい」といった身近に関わる内容も含まれている。よって、第2因子を「積極的な関係作り」

因子とした。

第3因子は「まわりは私に期待」、「友達に頼りにされている」、「他人がしないすばらしいことをしたい」、「自分のよいところをのばす」、「自分に何が足りないのか考える」、「やりたいことがたくさんある」、「自分を立派に見せたい」、「係の仕事を工夫」、「能率よくできるように工夫」、「町は自慢できる」、「将来は希望にあふれている」と、自分を肯定的に大切に評価し、充実感や自信を持つとする内容が含まれる。よって、第3因子を「自己有用」因子とした。

第4因子は「苦しいとあきらめる」、「人の意見に迷う」、「思い悩む」、「自由にとまどう」、「他の意見に反対できない」、「素直にあやまれない」、「係や当番の仕事はしたくない」と、我慢できない、はっきり言えない、素直になれない、やりたくない、といった自分自身の優柔不断性や弱さ、悩みに迷う内容が含まれる。よって、第4因子を「意志薄弱」因子とした。

第5因子は「自分らしさを大切にしたい」、「大きな木はすごい」、「今生きていることは大切」、「人のおかげでできあがる」、「外国の人と楽しく」と、自分らしさの尊重や他へのおかげ意識、そして、未知の外国人と、自己や人間の力を超えたものとの広い共存関係を意識した内容が含まれる。よって、第5因子を「人

Table 5 3世代の思いやり意識の因子構造

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
小学校6年生	素直さ	自らを ふりかえる	自己充足	周囲との 関わり	対人関係の 迷い
高校2年生	自己伸長	身近な生活	まじめさ	環境保護	自分の 弱さの認識
保護者	実直	積極的な 関係作り	自己有用	意志薄弱	人間共存

間共存」因子とした。以上、これら3世代の因子名をTable 5に示す。

全体的考察

ここでは、世代間を通じて、規律に関する一面で性差が見られず、概念の定着傾向がうかがえ、一方、例えば「友達をかさに入れてあげたい」といった項目では、ほぼすべての世代に性差が認められ、性役割の獲得という一面や、和やかに協調しようとするいわゆる「女性らしさ」の一端が見られた。さらに、例えば、小学生から中学生、高校生の世代の範囲においては、「いやなことはいや」、「素直にあやまらない」といった、より自己本位的な男子と、「ふんいきを明るくする」、「他の役に立つ」といった、より周囲へ配慮する女子の姿がうかがえる。また、高校生から大学生の世代の範囲では「他人がしないすばらしいことがしたい」と、より「自己尊重」傾向が強くなる男性と、一方では「学校は楽しい」、「頼りにされている」、「家でほっとする」といった和やかな中で互いに協調しようとする女性の傾向が見られる。そして、保護者の世代では、より「自分のよさをのばす」、「まわりは私に期待している」、「いい町にしたい」といった、自ら他を支えようとする傾向が強くなる男性と、より「思い悩む」、「あきらめる」といった悩む女性の姿が見られる。

このような傾向性は、Gilligan (1982) も同様に指摘している。すなわち、「女性が他者・世界と関係する仕方やその捉え方は、男性の発達方向性と基本的に異なっている。男性は発達と共に他から離れていくのに対し、女性は他者との関係を持つことに志向しつづける。男性には独立してひとりで生きていける強さ、能動性が期待される一方、女性には他者とよい関係を持てる特性（他者に依存する、一方、他者に共感的で援助的）が期待される。」また、少年では「自分と異なる他者の立場に立つ機会に恵

まれ、自他を分化させて捉えるようになっていく」のに対して、少女は「自他の分化よりも関係の維持を考える機会が多い」という。

また、林 (1992) は、「日本における年齢の意味社会の構造を考えたとき、性・年齢における差異は大きいものである。男女に差別はないといっても、それは基本的な人権に関することで、健康に関しても、疾病・志望に関しても男女はまったく異なるものであるし、心の問題に関しても当然異なるものが多くある。年齢もまったく同様で、健康・疾病・死亡に関してはもとより、心の問題でもその差の大きいものは多くある。こうした基本的な性・年齢と社会・職場・家族環境が絡み合い、それに歴史的・遺伝的特性（日本人ということも含まれる）や時代的な動向や広義の教育が影響して意識（意見）形成がなされる。」という。

これらの結果は、見方を違えれば、過去に男性優位であった日本の社会構造の残痕と見られるのかもしれない。

因子構造の検討から、3世代についての思いやりの構造として次のように捉えた。

小学校6年生は第1因子に「素直さ」、第2因子に「自らをふりかえる」が見られることから、真っ直ぐに物事を受け止め、成長にしたがって生活環境や学校生活の中で、「自らをふりかえる」ことを意識している次元が考えられる。そして、「自己充足」で自らの満足を求めようとする次元や、「周囲との関わり」の次元と、その一方で、「対人関係に迷う」次元も推測される。

高校2年生の思いやりの構造は、第1因子に「自己伸長」、第2因子に「身近な共生」と推測すると、まず周辺環境での自分を確認し、伸長させようとし、さらに学校や周辺における友達、家族関係と仲良くしようとする次元が考えられる。そして、正しい思いを持つこと、環境問題にその意識を拡大させ、生じてくるあきらめや迷いに悩むことを思いやり意識ととらえている。

保護者では、第1因子の「実直」、第2因子の「積極的な関係作り」から、他の迷惑や協調関係を常に正しくとらえようとし、積極的な関係作りが思いやりの次元であると考えられる。さらに、他に役に立つ自分を見つめ、意思決定に優柔不断であることを意識し、悩みながらも、他と共にある人間共存への思いを持っているように推測できる。

今後の課題

本研究では、思いやりを拡大して、思いやり意識としてとらえ、分析を行ってきた。

性差については、性差が生じている原因など、子どもと大人との相違と類似性についてのより深い検討が必要である。

因子分析では、予測されたこととはいえ、各世代間の類似性、相違点を必ずしも明らかにできなかった。これにも関連して、因子名の適切性や因子間の共通性についての検討等、因子構造の継続した吟味が必要である。また、ここで取り上げた3世代以外の他の世代についても継続して検討し、それぞれの世代が思いやり意識をどのような構造と捉えているかを明らかにしていきたい。

要約

22の道徳教育内容項目が含まれる4つの視点で思いやり意識と考え、それに関する質問項目への反応を手がかりに、小学校4年生、6年生、中学2年生、高校2年生、大学1・2年生、そしてそれらの保護者について、①その性差、②その因子構造の世代間の相違、を明らかにすることを目的に分析を行った。

その結果、小、中学生のころは相対的に男子は、率直な意思表示から自意識が強くなる一面が見られ、女子は身近な人たちに和やかに関わろうとする傾向が強く見られる。高校生では、相対的に男子は他に無関心な一面があり自己本

位傾向が強く、女子は冷静に周囲と協調する。大学生は、相対的に男性で自分らしさを求める傾向が強く、女性は和やかさが見られる。そして保護者は、相対的に男性は、自分のよさを信じ、まわりの期待に答えようとし、女性は判断に思い悩み、あきらめたりする傾向となる。

思いやり意識の因子構造については、小学校6年生で、素直さ、自らをふりかえる、自己充足、周囲との関わり、対人関係の迷い等と考えられる因子が確認されたが、素直に物事を受け止める姿勢や、自分をふりかえる傾向の強さが、思いやり意識の重要なものと考えられる。高校2年生では、自己伸長、身近な共生、まじめさ、環境保護、悩み等の因子を確認したが、学校生活を中心とした周辺環境の中で自分自身を確認し、自分を伸長させようとする思い、小学6年生よりも拡大した生活の場におけるまじめさが、思いやり意識を左右していると考えられる。保護者では、実直、積極的な関係作り、自己有用、意思薄弱、人間共存等の因子を確認したが、子どもよりも更に拡大した、実生活での誠実さ、特に常に他の迷惑や協調関係を考慮し、積極的な関係作りの姿勢が、思いやり意識のポイントとなっていると推測される。また、すべての世代に共通して自己尊重関連因子が確認されたことについても、自らに対する思いやりの重要性を示しているという点で注目したい。

文献

- Gilligan, C. 1982 *In a different voice psychological theory and women's development* Harvard University Press: Cambridge
 岩男寿美子 監訳 1986「もう一つの声」川島書店
 林知己夫 1992「日本における年齢の意味」統計数理 研究所国民性調査委員会「第5日本人の国民性」211-246 出光書店
 金子劭榮・田村博久 1997「思いやり意識の年

「年齢差とその因子構造」教育工学研究(金沢大学教育学部附属教育実践研究指導センター) 23号, 1-14

金子勲榮・田村博久 1998 「児童・生徒の思いやり意識」

金沢大学教育学部紀要(教育科学編) 47号, 99-111.

付記 本稿は、金子の指導に基づき、田村が分析、執筆したものである。